京都大学附属図書館

KYOTO UNIVERSITY LIBRARY

1984

沿革の概要

≪創設時の経緯≫

京都大学附属図書館の歴史は、明治30年６月18日勅令第209号をもって京都帝国大学が創立され、同日、勅令第211号をもって公布された京都帝国大学官制によって附属図書館の設置が定められたことに始まる。

すなわち、附属図書館は本学の開学とともに発足し、ただちに理工科大学教室の一部に仮図書室を設け、購入図書並びに文部省、東京帝国大学、第三高等学校及び帝国図書館等から移管された図書の整理を始めるとともに、明治31年７月、附属図書館最初の建築として煉瓦造２階建の書庫（第１書庫、現・文学部書庫）を建設、ついで翌32年７月、閲覧室及び事務室が竣工、同年12月11日、事務室をこの建物に移し、新営の閲覧室において閲覧業務を開始した。爾来、附属図書館は、この日をもって創立の日としている。

その後、明治36年４月煉瓦造3階建の新書庫（第２書庫、本年３月まで使用）を、明治40年５月に事務室の増築を行ない、こえて大正７年３月、煉瓦造平屋建を別個に建築し、さらに大正14年７月鉄筋コンクリート造４階建の書庫（第３書庫、本年３月まで使用）を増築した。また、蔵書の充実と閲覧者の増加に伴い、昭和８年には、当時の法経新館２階に第２閲覧室を開設した。

≪旧　館≫

昭和11年１月24日午前10時50分頃、第１閲覧室の天井より出火し、設立当初建築した木造閲覧室を焼失した。このため閲覧業務は第２閲覧室と本部（時計台）２階大ホールを使用して行なわれた。

この頃、すでに新図書館建設の計画がまとめられており、地上３階、地下１階、書庫７層、総面積延約7,260㎡の規模とし、各室の施設、設備についても、図書館の機能を十分に果し得るよう考慮し設計されていた。しかし、戦時中の諸般の事情により着工延期となり、昭和15年１月に至り漸く着工されることになったが、激化する戦局と大戦への拡大によって、当初の構想も地上２階までにとどめられ、鉄筋コンクリートの外部は完成したものの、内装、外装とも未仕上げのまま放置され終戦をむかえた。

戦後の最悪の諸条件のもとで、とりあえず閲覧室及び事務室など緊急を要するものの補修が行なわれ、昭和23年３月、閲覧室及び事務室をこの新館（旧図書館）に移した。こえて昭和29年、書庫部分が完成した。これにより、図書館の延面積は5,406㎡となった。

≪図書館活動の発展≫

このように図書館施設の拡充がはかられる一方で、資料の充実にも力が注がれ、昭和32年12月に国際地球観測年事業の一つとして地磁気世界資料室、昭和34年４月にはアメリカ研究センター図書室、また、昭和40年６月には、アメリカのエール大学のHRAF（Human Relations Area Files）資料配布館となり、本館にHRAF室が開設された。

一方、図書館利用の拡大により、昭和38年12月に開架図書室、昭和43年４月２階に新聞閲覧室を開設し、同年７月には館内を改装して新たに１階に第２閲覧室と雑誌室を設けた。さらに夜間開館時間を昭和54年から午後９時まで延長した。

蔵書も年々増加の一途を辿り、昭和53年には所蔵数も50万冊を超えた（因みに、全学の蔵書数は、このとき、約400万冊、年間増加冊数は約10万冊）。また、同年より文部省から全国共同利用図書購入費の配賦をうけ、人文・社会科学系の大型コレクションも蔵置するようになった。

図書館機能の中心は、図書館資料を有効に、かつ多くの利用者の利用に供することにある。そのための重要な仕事の一つは図書目録の整備であるが、本館は創立以来、全学受入図書の総合目録を完備しており、その他のサービス業務でも、昭和33年に文献複写サービスを開始したのをはじめ、文献資料の国際交換サービスも、その要請に積極的に応じるとともに、昭和43年には学内図書相互利用について、学内各部局の協力を得て利用手続きを簡略化した。さらに図書館活動の活発化と利用者とのコミュニケーションをはかるため、昭和39年９月から館報『静脩』を刊行し、現在75号を数えるに至っている。

≪新館建設の経緯≫

昭和40年代に入ると、学術研究の急速な発展と学術情報流通メディアの長足の進歩とによって、図書館業務のあり方について、新たな見直しが重要な課題となるに至った。附属図書館では、昭和41年４月、商議会のもとに運営改善特別委員会を設けて検討し、図書館運営の近代化策をまとめ、さらに昭和46年３月に京都大学ライブラリー・システムの試案及び図書館業務の機械化についての考え方をまとめた。

この頃から図書館増改築について検討がはじめられ、昭和49年12月、運営改善に関する委員会を設置、当面の図書館の改善と将来を展望した図書館づくりについて、同委員会に小委員会を設けて検討がはじめられた。また、昭和53年７月には、前記運営改善に関する委員会の構想をふまえて、具体的な業務上のサービスとそれに伴う諸施設について検討するため、施設・サービス委員会を発足させ、附属図書館新営構想の策定に入った。

その後、新館建設の実現には曲折があったが、昭和55年10月、全面建替えが関係当局によって認められ、昭和56年１月、商議会は「京都大学附属図書館新営計画」を決定、同年12月新営工事がはじめられ、昭和58年10月20日、地上４階、地下２階、総面積14,000㎡の図書館が竣工、昭和59年４月開館を迎えた。

歴代館長

	氏　名	就　任	退　任
	島　文次郎	明治32. 11. 6	明治43. 7. 25
	石川　一	43. 7. 25	44. 10. 1
文博	新村　出	44. 10. 1	昭和11. 10. 19
文博	羽田　亨	昭和11. 10. 19	13. 11. 25
経博	本庄栄治郎	14. 1. 17	17. 7. 28
文博	沢潟久孝	17. 9. 1	22. 5. 31
文博	原　随園	22. 5. 31	24. 11. 8
文博	泉井久之助	24. 11. 8	32. 7. 15
法博	田中周友	32. 7. 15	38. 7. 14
文博	（事務取扱）足利惇氏	38. 7. 15	38. 7. 25
経博	堀江保蔵	38. 7. 25	41. 7. 24
工博	宍戸圭一	41. 7. 25	46. 3. 31
	平岡武夫	46. 4. 1	48. 3. 31
	林　良平	48. 4. 1	57. 3. 31
工博	高村仁一	57. 4. 1	

新図書館の開館にあたって

附属図書館長　高　村　仁　一

京都大学の長い間の夢の一つが、美しい装いと豊かな機能をそなえた図書館として、いよいよ開館の運びとなりました。まことにご同慶にたえません。読みたい本がほしいと思う時に手に入り、希望の文献が手際よく検索でき、書庫内で自由に拾い読みして思わぬ本や文章と出会い、妨げのない環境で読書と思索にふけり、また分野を越えた学問の交流の場が提供される、大学人のこんな夢を満たせる図書館でありたいとの希いが、新しい図書館には籠められております。

京都大学が新しい図書館の建設を目指すようになったのは、今から10年も前の林良平前館長時代のことであります。当時、すでに建物の老朽化がすすみ、また、面積不足や機能的な面で、図書館活動を拡大していくことが極めて困難な状況になりつつありました。このような状態を打開するため，建物の増築ないしは新営によって、図書館運営の近代化をはかることが緊要の課題となってまいりました。

附属図書館商議会は、昭和49年12月に運営改善に関する委員会、昭和53年７月には施設・サービス委員会を設置し、将来を展望した図書館づくりの構想をまとめました。新館の建設は、その構想実現の一環をなすものであります。

新館の実現までには、種々の曲折がありましたが、関係各位のご尽力とご支援により、昭和56年度の国立大学施設整備事業として、京都大学附属図書館の新営が、文部省によって認められるに至りました。

新館は、昭和56年12月に着工以来、約２年の歳月と27億円の巨費を投じて、昭和58年10月に竣工いたしました。この間、利用者各位には多大のご迷惑をおかけしましたが、仮移転の期間中、閲覧室、事務室、書庫等を貸与くださった法学部、理学部をはじめ各部局の全面的なご協力により、図書館業務を円滑にすすめることができました。

新館の延面積は、旧館の約３倍（14,000㎡）であり、開架図書室、参考図書室、雑誌閲覧室などの充実はもとより、これまでになかった研究個室、共同研究室、教官談話室およびＡＶホールなど各種の施設・設備が新設されました。この恵まれた環境のもとで、何よりも大切なことは、図書館が利用しやすく、親しみやすい、自由な雰囲気の漂う思索の場となるよう、具体的な運営について様々な工夫と新しい施策を講じなければならないことであります。とくに附属図書館にとっては、五十有余の図書館(室)からなる全学図書館システムの中央館として、ハーバード方式とも呼ばれる《調整された分散方式》を、どのように機能させていくかが重要な課題であります。

附属図書館は、これまで主として学生を中心とした学習・調査活動を支援する学習図書館としての役割を果してまいりました。この役割は、益々発展させなければなりませんが、今後は、研究図書館、保存図書館および総合図書館としての機能の充実にも積極的に取り組んでまいります。研究図書館機能としては、例えば、全学的な収書・収納計画にもとづく高額参考図書の集中配置、バックナンバーセンターの設置、工学部の協力を得て実施される化学系新着雑誌の集中配置、その他文献資料の提供業務やテレックスによる研究情報の交流などがあります。このような研究図書館としての機能は、今後の京都大学附属図書館を特徴づけるものになると存じます。さらに保存図書館機能としては、100万冊の収蔵力をもつ書庫の整備とバックナンバーセンターの効率的な運用、並びに書庫内の自由閲覧など従来の保存図書館の概念からの脱皮をはかるとともに、総合図書館機能としては、部局図書館(室)の独自性を尊重しつつ、全学的な有機的連繋を一層緊密に保ち、情報処理センター的な機能を整備すること、および地域センター館としての役割をふまえ、各種の施設・設備を利用した図書館活動の総合化をはかっていきたいと存じます。

附属図書館は、学術情報と文献資料の提供を通じて、教育・研究活動を支援する機構であります。私どもは、図書館を「支援機構」であると自ら明確に規定することにより、その任務を深く認識し、積極的な役割を果してまいります。

新しい図書館の開館を迎えて、この図書館を学生諸君並びに教職員の方々に十分に活用していただき、伝統を誇る京都大学のアカデミズムが一層の光彩を放つのに役立ちますよう、鮮明な図書館像の確立をめざして努力いたす所存であります。

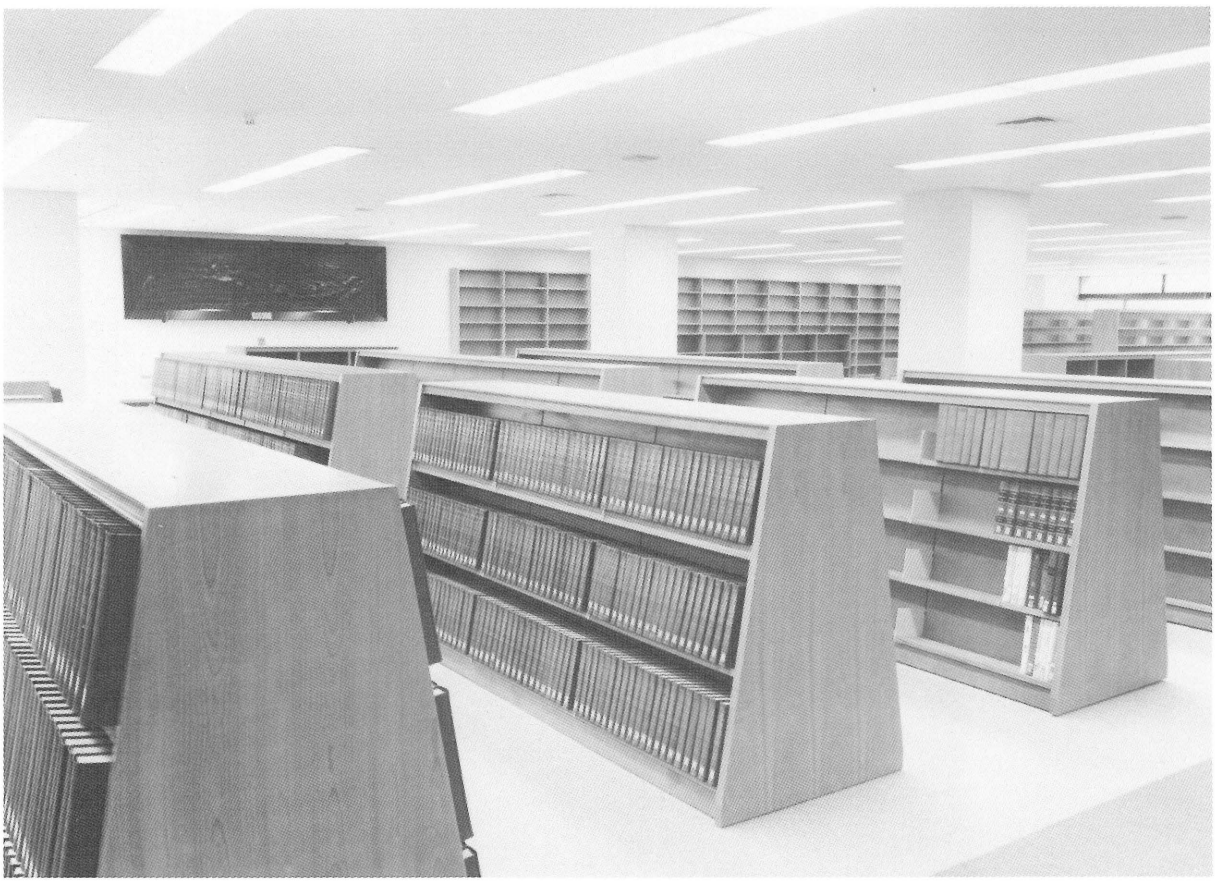
終りに、新図書館の建設と整備に心を砕いていただいた関係各位に深甚の謝意を表します。

東北面

南西面

1Ｆ 正面玄関

1Ｆ エントランスホール



1Ｆ　参考図書室

1Ｆ メインカウンター

1Ｆ 雑誌閲覧室

1.2F 吹抜けとロビーラウンジ

2F 開架閲覧席北側

3F 研究個室

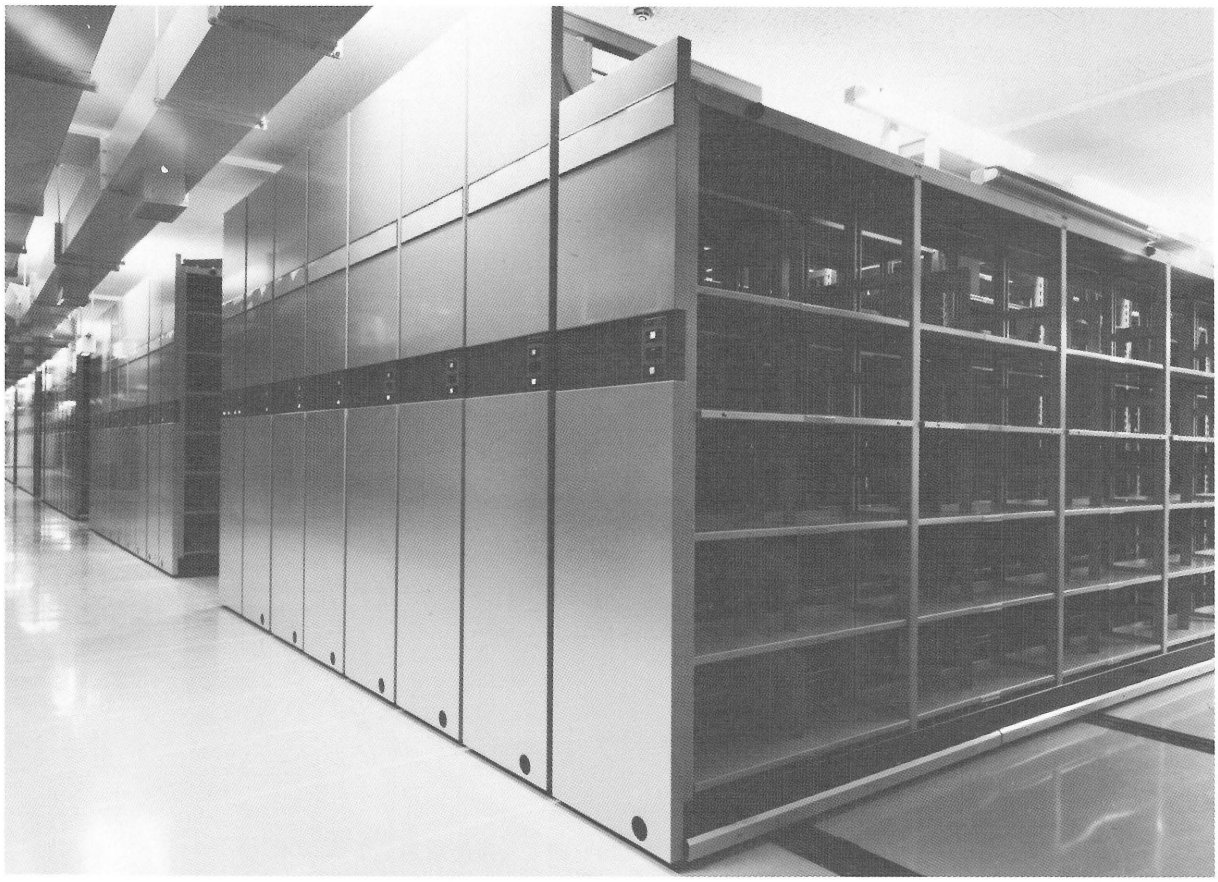
3F 特殊資料室（HRAF資料）

3F AVホール

4F 大会議室

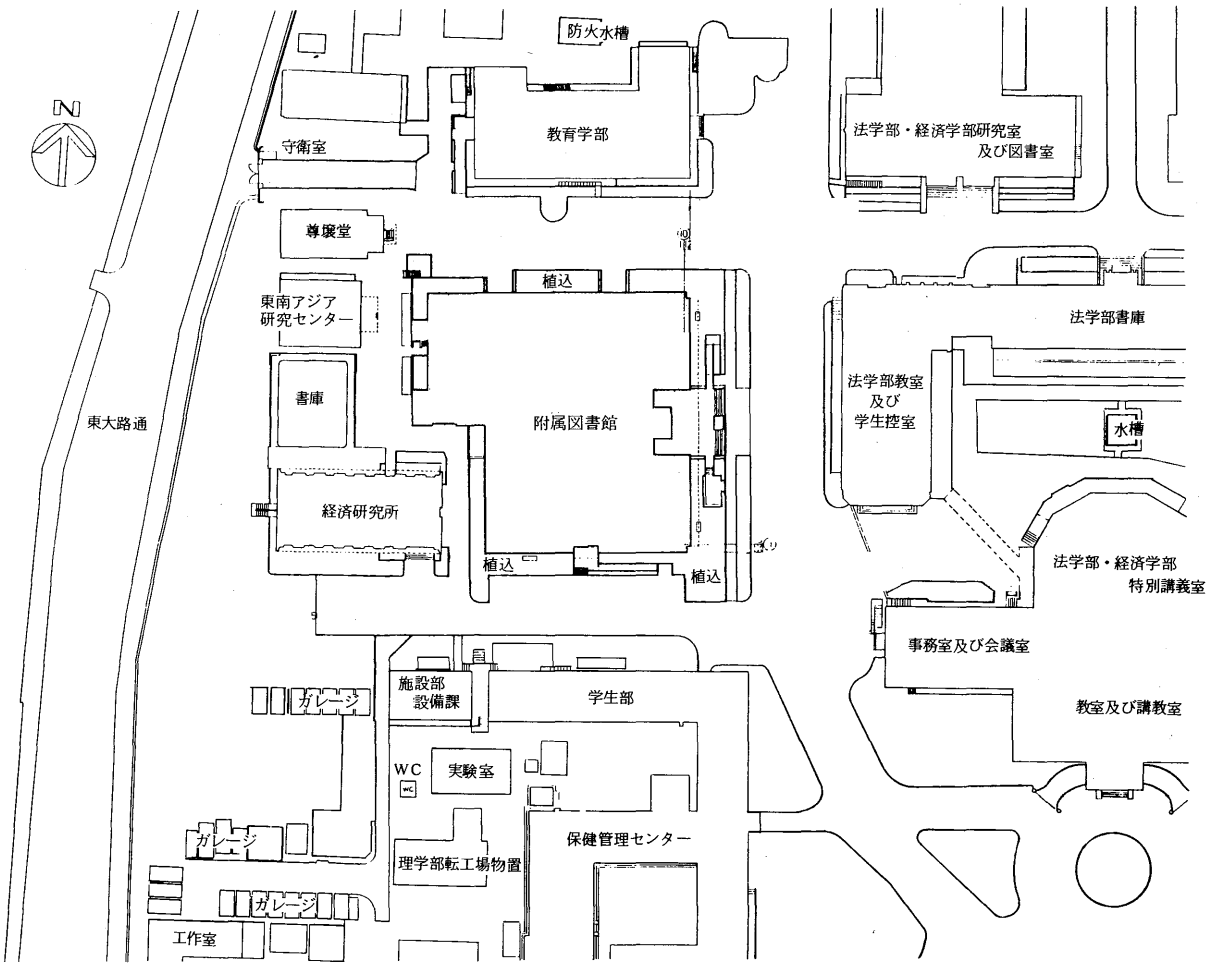
B1 書　庫

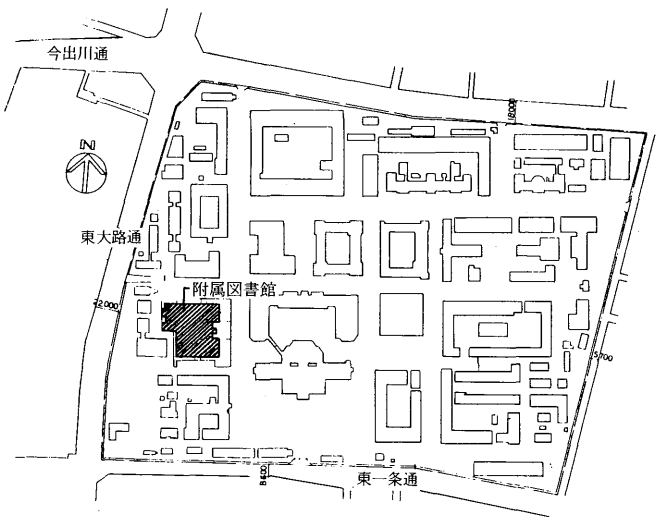
B1 貴重書庫



B2 集密書庫

配置図

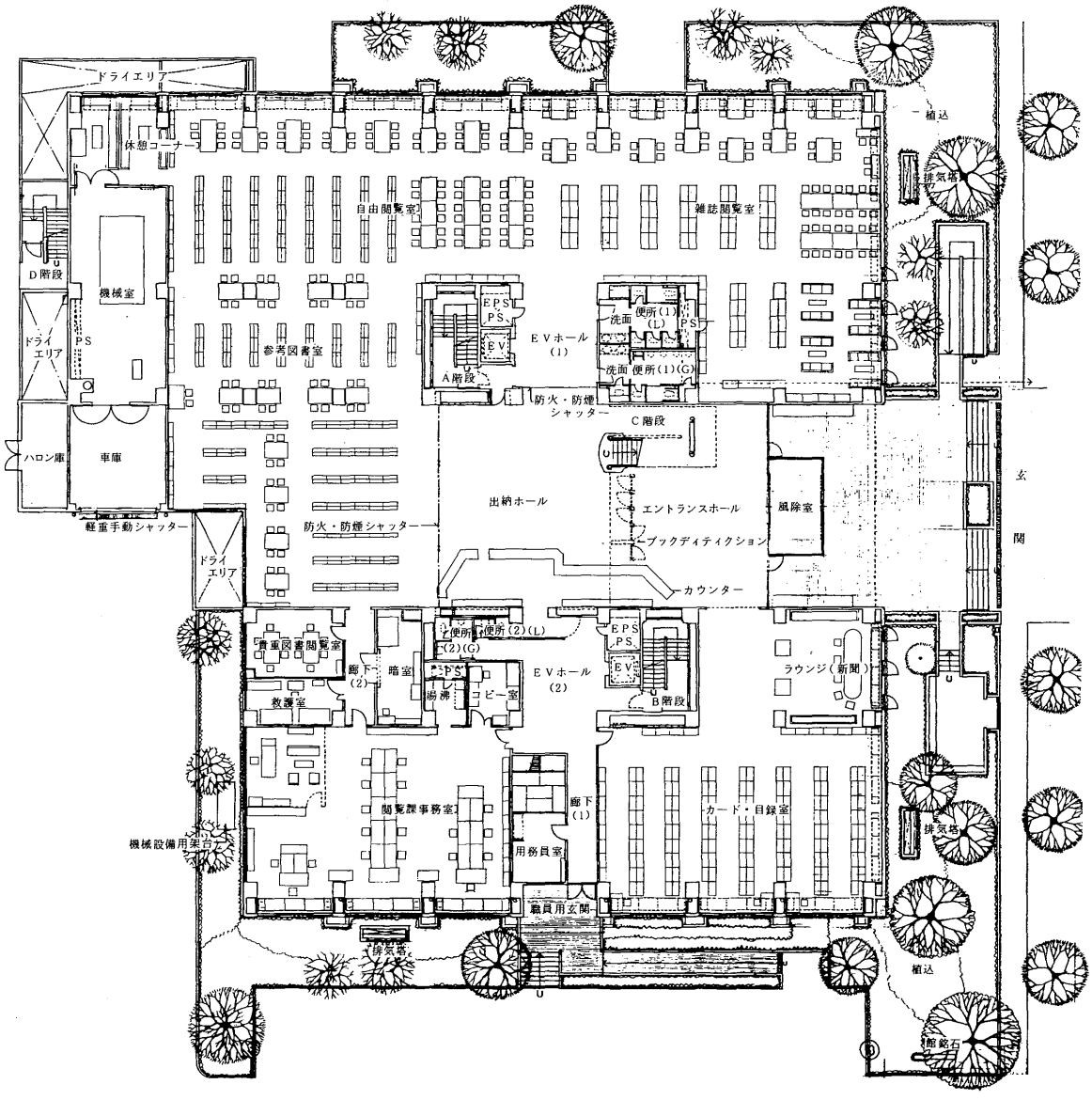




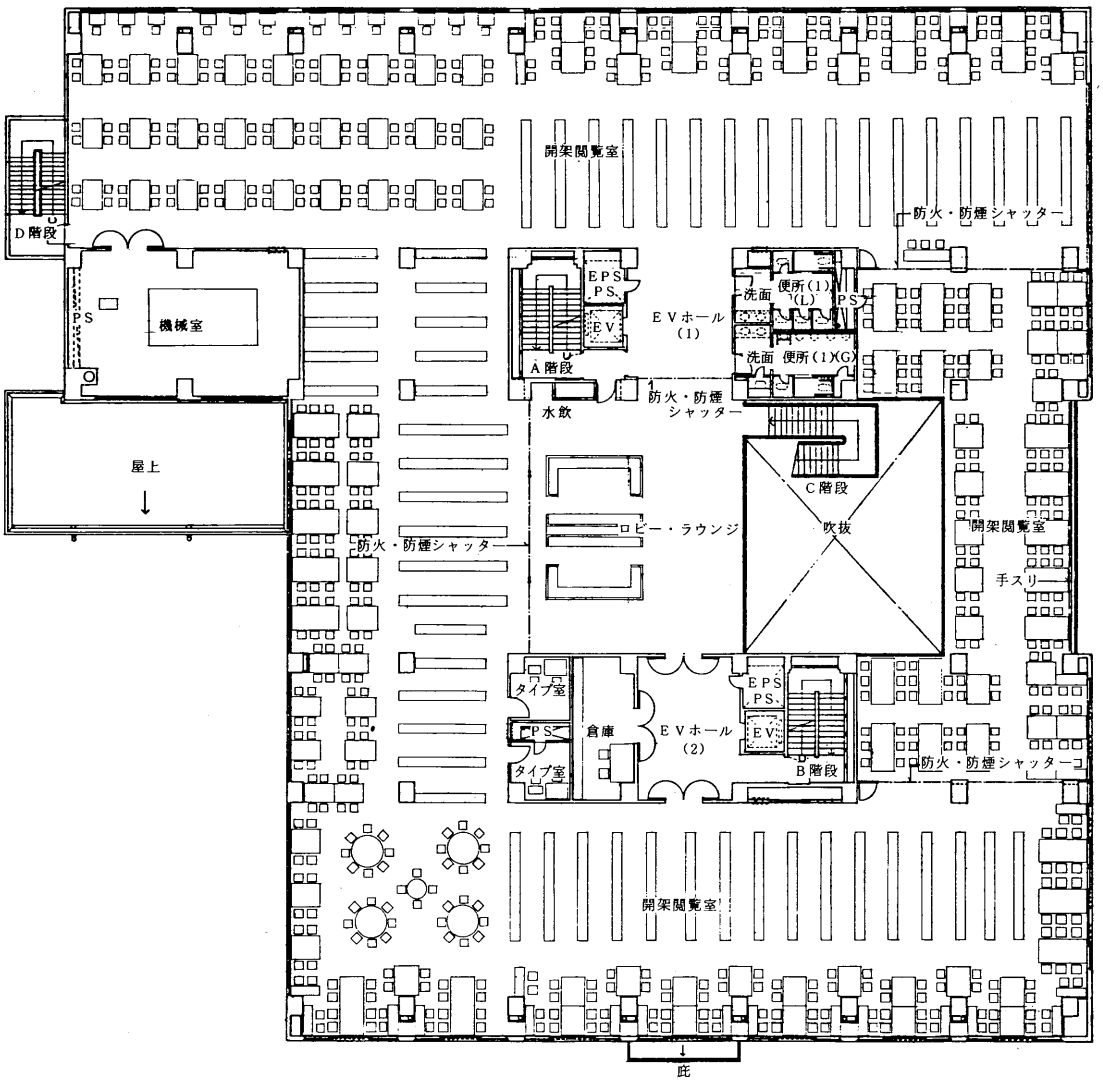
附近見取図・全体配置図　1：2400

平面図

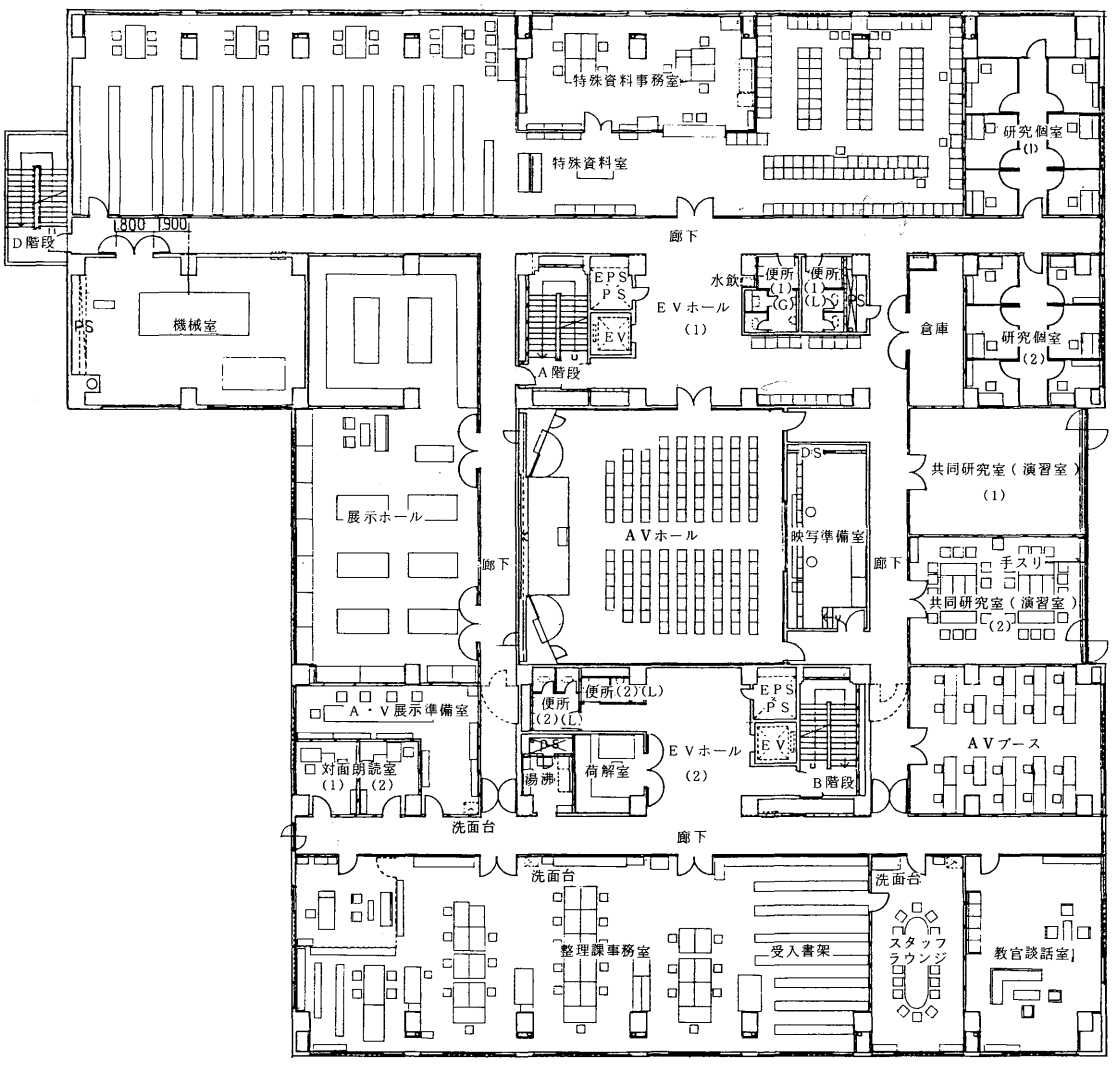
1階


ドライエリア
休憩コーナー
植込
排気塔
自由閲覧室
雑誌閲覧室
D階段
機械室
ドライエリア
PS
参考図書室
EPS
PS
EV
EVホール(1)
A階段
洗面
便所(1)(L)
PS
洗面
便所(1)(G)
防火・防煙シャッター
C階段
ハロン庫
車庫
出納ホール
エントランスホール
風除室
玄関
軽車手動シャッター
防火・防煙シャッター
ブックディティクション
ドライエリア
カウンター
貴重図書閲覧室
便所(2)(L)
便所(2)(G)
EPS
PS
EV
廊下(2)
暗室
PS
湯沸
コピー室
EVホール(2)
B階段
ラウンジ(新聞)
救護室
閲覧課事務室
廊下(1)
カード・目録室
排気塔
機械設備用架台
用務員室
職員用玄関
排気塔
植込
館銘石

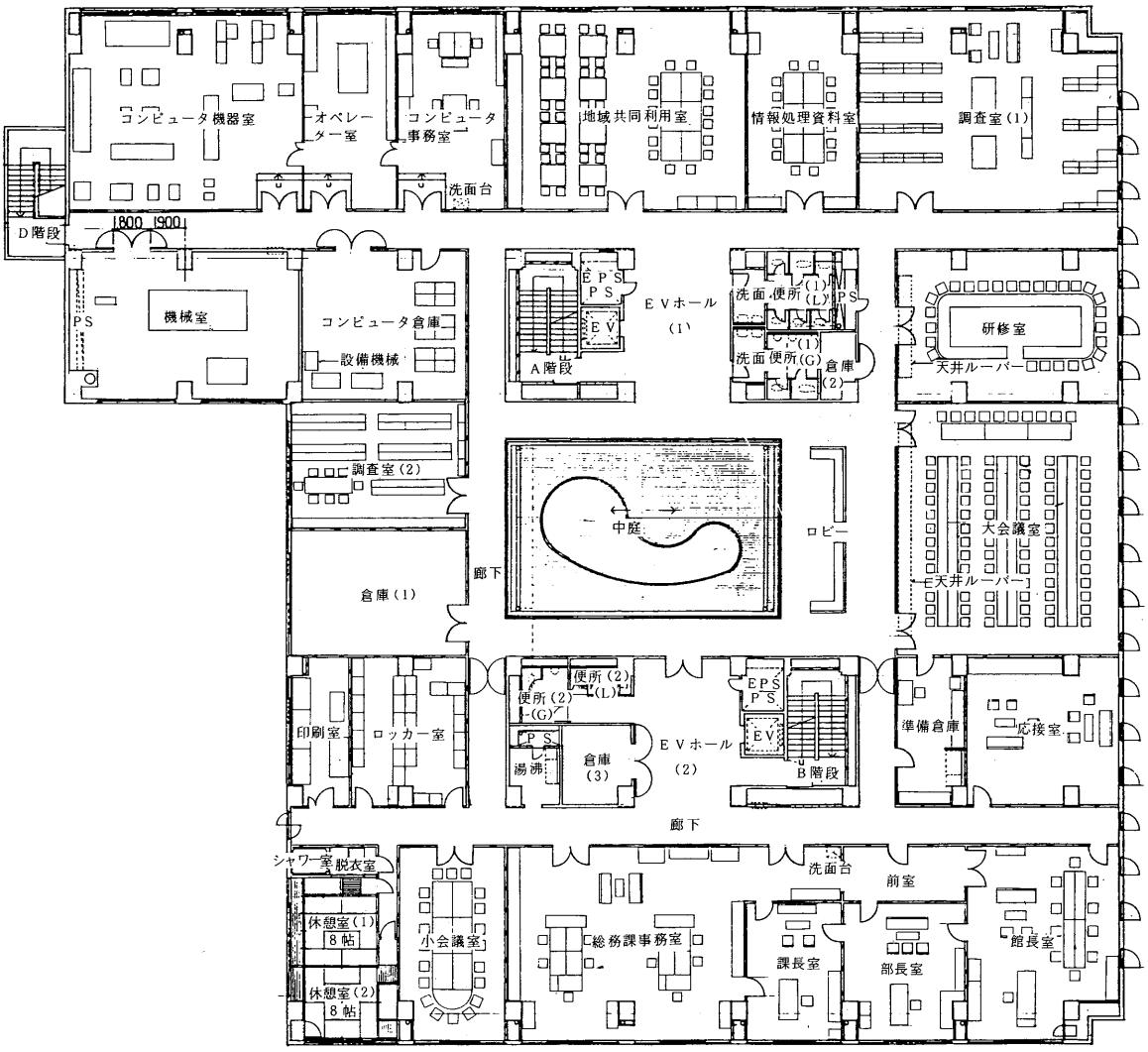
2階


開架閲覧室
防火・防煙シャッター
D階段
PS
機械室
EPS
PS
EV
EVホール
(1)
A階段
洗面
便所(1)
(L)
PS
洗面
便所(1)(G)
水飲
防火・防煙
シャッター
屋上
C階段
吹抜
ロビー・ラウンジ
防火・防煙シャッター
開架閲覧室
手スリ
タイプ室
PS
倉庫
EVホール
(2)
EPS
PS
EV
B階段
タイプ室
防火・防煙シャッター
開架閲覧室
庇

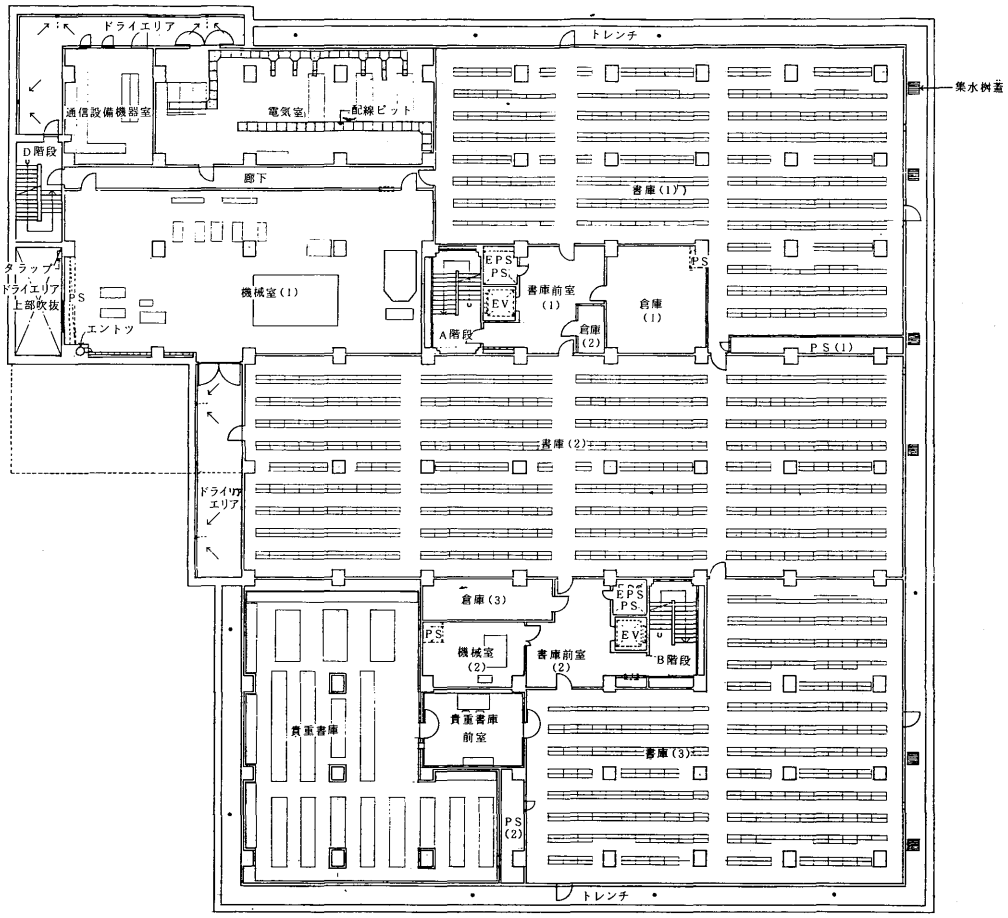
3階


特殊資料事務室
特殊資料室
研究個室
(1)
D階段
800
900
廊下
機械室
EPS
PS
EV
EVホール
(1)
水飲
便所
(1)
(G)
便所
(1)
(L)
PS
倉庫
研究個室
(2)
A階段
DS
共同研究室（演習室）
(1)
展示ホール
AVホール
映写準備室
廊下
廊下
手スリー
共同研究室（演習室）
(2)
A・V展示準備室
便所
(2)(L)
便所(2)(L)
EPS
PS
EV
AVブース
対面朗読室
(1)
(2)
DS
湯沸
荷解室
EVホール
(2)
B階段
洗面台
廊下
洗面台
洗面台
整理課事務室
受入書架
スタッフ
ラウンジ
教官談話室

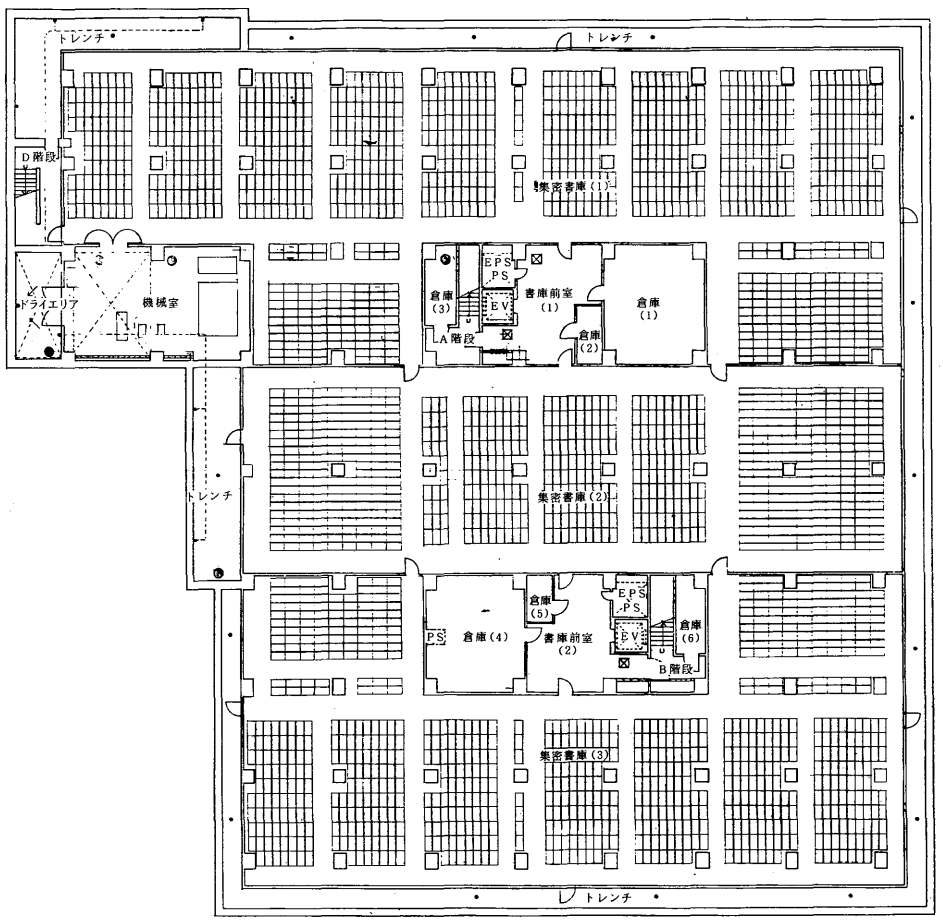
4階


コンピュータ機器室
オペレーター室
コンピュータ事務室
洗面台
地域共同利用室
情報処理資料室
調査室(1)
D階段
1800 1900
PS
機械室
コンピュータ倉庫
設備機械
EPS
PS
EV
A階段
EVホール
(1)
洗面 便所 (L) (1) PS
洗面 便所(G) (1) 倉庫 (2)
研修室
天井ルーバー
調査室(2)
中庭
ロビー
大会議室
天井ルーバー
倉庫(1)
廊下
便所(2) (L)
便所(2) (G)
EPS
PS
EV
B階段
印刷室
ロッカー室
PS
湯沸
倉庫 (3)
EVホール
(2)
準備倉庫
応接室
廊下
シャワー室
脱衣室
洗面台
前室
休憩室(1) 8帖
休憩室(2) 8帖
小会議室
総務課事務室
課長室
部長室
館長室

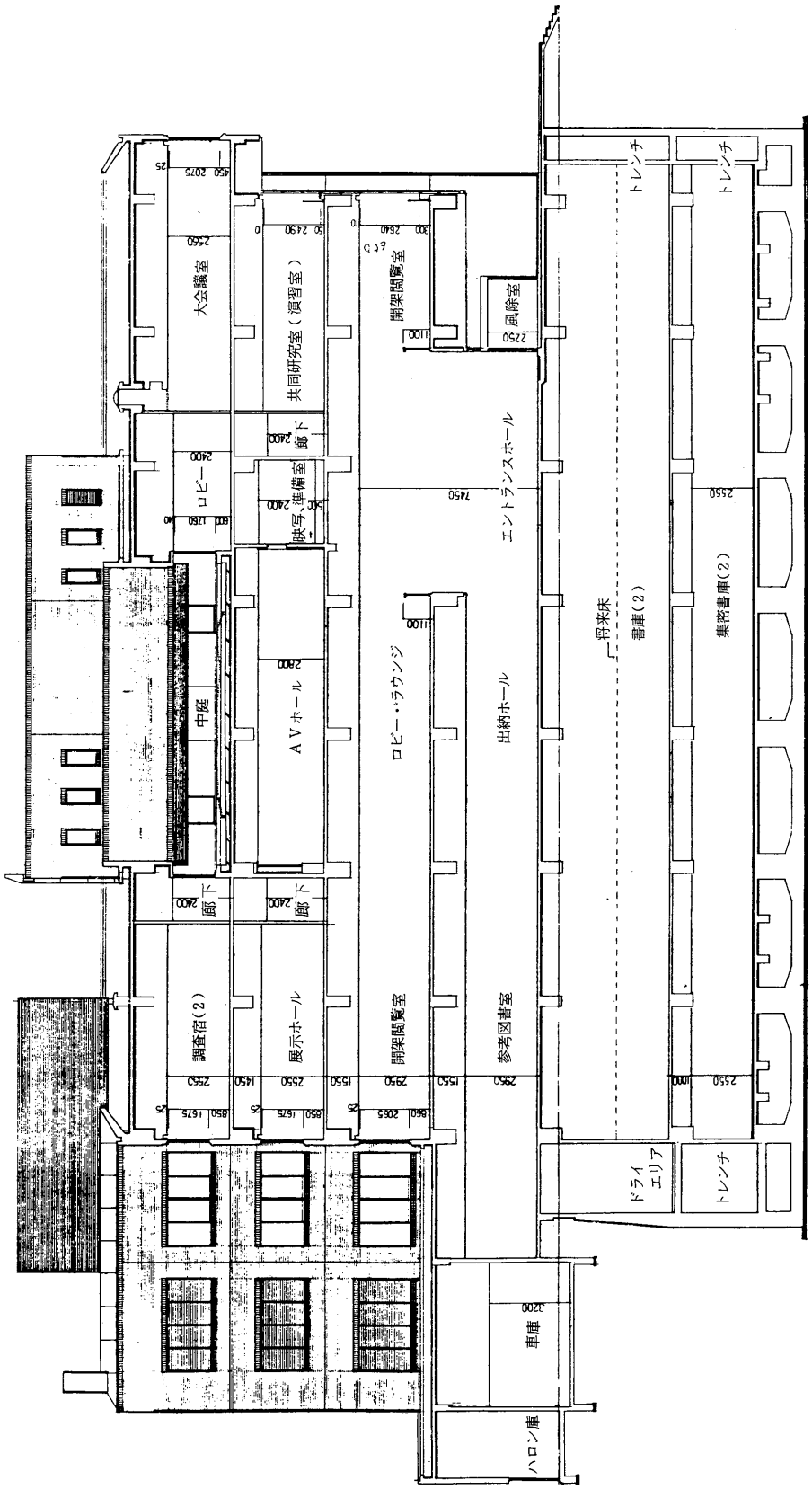
地下１階


ドライエリア
トレンチ
集水桝蓋
通信設備機器室
電気室
配線ピット
D階段
廊下
書庫(1)
タラップ
ドライエリア
上部吹抜
PS
エントツ
機械室(1)
EPS
PS
EV
A階段
書庫前室
(1)
倉庫
(2)
倉庫
(1)
PS(1)
書庫(2)
ドライエリア
倉庫(3)
EPS
PS
EV
B階段
PS
機械室
(2)
書庫前室
(2)
貴重書庫
貴重書庫
前室
書庫(3)
PS
(2)
トレンチ

地下２階


トレンチ
トレンチ
D階段
集密書庫(1)
ドライエリア
機械室
EPS
PS
EV
倉庫
(3)
A階段
書庫前室
(1)
倉庫
(2)
倉庫
(1)
トレンチ
集密書庫(2)
倉庫
(5)
EPS
PS
EV
倉庫
(6)
PS
倉庫(4)
書庫前室
(2)
B階段
集密書庫(3)
トレンチ

断面図


大会議室
共同研究室（演習室）
開架閱覧室
風除室
ロビー
廊下
映写、準備室
エントランスホール
中庭
AVホール
ロビー・ラウンジ
出納ホール
将来床
書庫(2)
集密書庫(2)
トレンチ
調査宿(2)
展示ホール
参考図書室
ドライエリア
車庫
ハロン庫

附属図書館工事概要

設　　計　京都大学施設部
　　株式会社富家建築事務所
　　株式会社末松設備綜合コンサルタント

監　　理　京都大学施設部

工　　期　着工　昭和56年12月26日
　　竣工　昭和58年10月20日

施　　工　建　　築　戸田建設株式会社
　　電　気　設　備　関東電気工事株式会社
　　空気調和衛生設備　新菱冷熱工業株式会社
　　通　信　設　備　東邦電気工業株式会社
　　エレベーター　日本エレベーター製造株式会社

構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造り（S.R.C）
　　地上4階　地下2階　塔屋1階

面　　積　建築面積　2,477.86㎡
　　延床面積　14,011.25㎡
　　地下2階　2,353.21㎡
　　〃 1階　2,353.21㎡
　　地上1階　2,319.29㎡
　　〃 2階　2,168.70㎡
　　〃 3階　2,297.98㎡
　　〃 4階　2,262.09㎡
　　塔屋階　256.77㎡

仕上概要
　外　装
　　壁　　レンガタイル張り（フランス張り）
　　屋根勾配部　耐候性鋼板曲げ加工　酸化安定化処理
　　屋　　根　合成高分子シート防水の上　耐磨耗性保護材吹付
　　建　　具　アルミニュウム製（電解着色仕上）
　　カーテンウォール　耐候性鋼板曲げ加工　酸化安定化処理
　　鋼　製　建　具　グラファイト塗装

内　装（主要内部仕上）

室　　名	床	壁	天　　井
集 密 書 庫	合成樹脂塗り	合成樹脂エマルジョンペイント仕上	不燃化粧石膏ボード張り
貴 重 書 庫	木軸下地の上ブナフローリング張り	木軸下地米杉板落し込み	米杉板張り
エントランスホ　ー　ル	カーペットタイル張り	レンガタイル張り	ロックウール吸音板張りの上合成樹脂エマルジョンペイント仕上
開 架 閲 覧 室	カーペットタイル張り	ゆず肌状模様吹付クリヤー	ロックウール吸音板張りの上合成樹脂エマルジョンペイント仕上
A V ホ ー ル	カーペットタイル張り	有乳化粧天然木目けい酸カルシュウム板張り	ロックウール吸音板張りの上合成樹脂エマルジョンペイント仕上
大 会 議 室	カーペットタイル張り	化粧天然木目シートシート張り	ロックウール吸音板張りの上合成樹脂エマルジョンペイント仕上

外　構

正面玄関

＜床＞レンガタイル張り　＜軒天井＞耐候性鋼板曲げ加工

酸化安定化処理底目地張り　身障者用スロープ

搬入用スロープ　植栽　自転車置場

主要設備

空気調和設備

方式

閲覧室
事務室
会議室
資料室
その他
} 天井埋込型ファンコイルユニット方式（処理外気送気）

AVホール　空冷式パッケージ型空調機全ダクト方式（単独系統）

電子計算機室　空冷式パッケージ型空調機方式

貴重書庫　空冷式パッケージ型空調機全ダクト方式（単独系統）

熱源

ガス直焚２重効用吸収式冷温水発生機　313RT１台

取出温度　温水55℃，冷水７℃

換気設備

地下１，２階書庫（貴重書庫を除く。）は，空調機で外気を温湿度処理し送気，強制排気（小型除湿機52台併用）

給排水・ガス・消火設備　一式

電気設備

照明設備

１，２階閲覧室及び全館共用部分はマイクロコンピューターによる照明制御，省電力型蛍光灯を採用

昇降機設備

利用者用エレベーター（乗用11人乗り　付加機能＝車椅子対策及び視覚障害者対策，地震管制運転，火災管制運転）　１基

管理用エレベーター　１基

通信・防災設備

通信設備

館内専用電子式自動電話交換機（96回線）

ハロンガス消火設備

防災設備

自動火災報知設備，非常警報設備，ガス漏警報設備その他（複合受信機110回線）

拡声設備

自動入退館設備（IDカード・システム及びブックディテクション・システム）

電子計算機（FACOM　V－830，及び周辺機器）

電動集密書架

総 工 費　2,677,500,000円

建　築　2,030,550,000円

設　備　　646,950,000円

附属図書館の現況

開館時間

平　日　　午前９時――午後９時

土曜日　　午前９時――午後５時

　ただし，１月６日－１月10日，７月21日－８月４日

　８月16日－９月10日の各期間は

平　日　　午前９時――午後５時

土曜日　　午前９時――午後５時

休 館 日

日曜日，国民の祝日，本学創立記念日（６月18日），４月１日－４月５日

８月５日－８月15日，12月25日－翌年１月５日　毎月末日（末日が日曜日にあたる場合は，その前日）

主な利用対象者数（58．5．1）

学部学生　　11,345名

大学院生　　3,463名

教 職 員　　5,710名

閲覧座席

開架閲覧室	参考図書室	雑誌閲覧室	自由閲覧室	研 究 個 室
600席	70席	40席	100席	13席

新聞ラウンジ，貴重図書閲覧室，特殊資料室，共同研究室等は含まない。

蔵 書 数（58．5．1）

	図　書(冊)	雑　誌(種)
和書	2,203,587 (389,240)	21,640 (4,016)
洋書	1,955,090 (156,079)	23,954 (3,450)
合計	4,158,677 (545,319)	45,594 (7,466)

（　）内は附属図書館

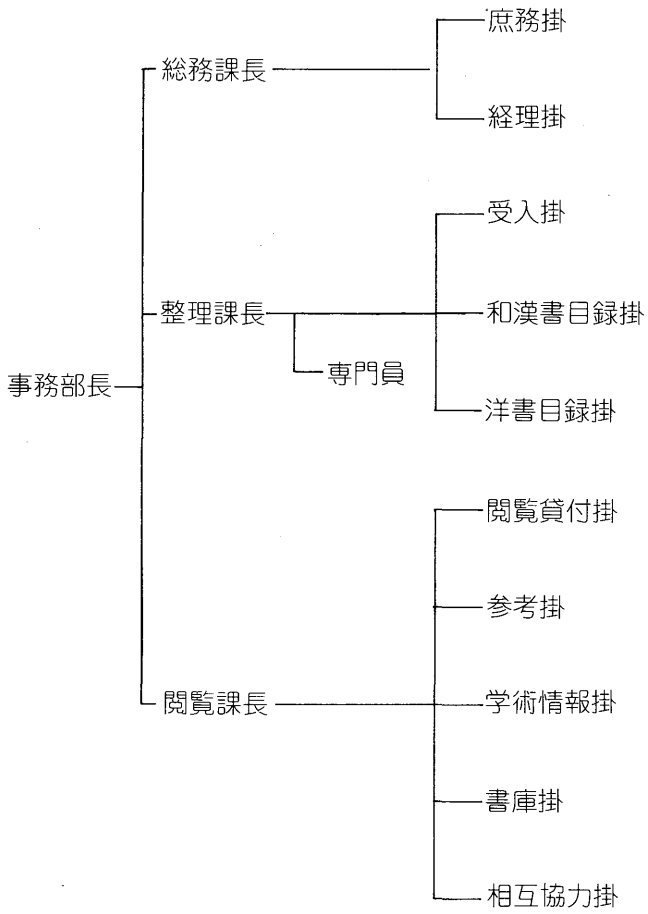
年間増加冊数（昭和57年度）

	全　　学	附属図書館
和書	53,519	6,527
洋書	55,807	3,466
合計	109,326	9,993

書庫収容力

約105万冊　うち，バックナンバーセンター40万冊

事務組織



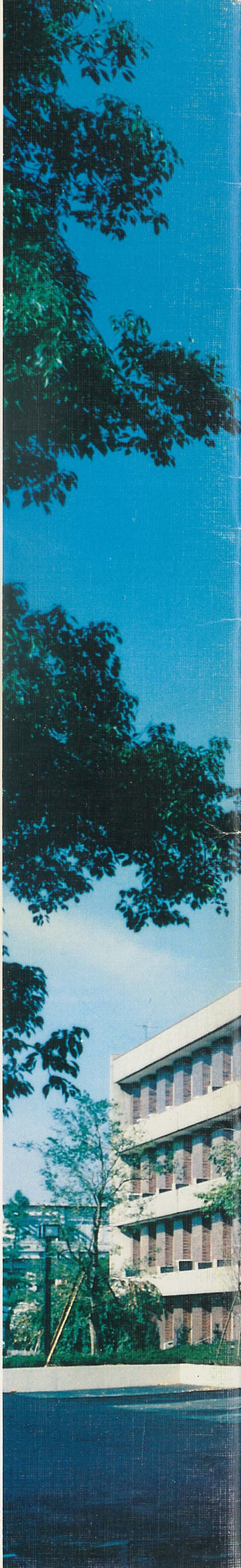
職 員 数（58. 5. 1）

66名（非常勤職員を含む。）

定期刊行物

京都大学附属図書館報『静脩』1年4回発行

京都大学附属図書館

〒606 京都市左京区吉田本町
TEL (075) 751－2111

印 刷　昭 和 堂 印 刷 所